

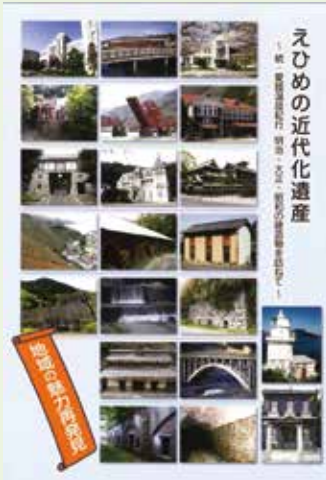
2年間を振り返って

私は、平成25年4月から2年間、(公財)えひめ地域政策研究センター(以下、センター)に勤務させていただきました。このレポートの機会に2年間を振り返り、センターでの経験や出会いから私が感じたことを紹介させていただきます。

「えひめの近代化遺産」の出版

それがセンターに着任した私の初めての仕事でした。この仕事は完成したばかりの近代化遺産総合調査報告書を活用し、県民の皆さんに近代化遺産をまず、知ってもらう本をつくらうというセンターの独自事業でした。ちなみに近代化遺産とは、「幕末から第二次世界大戦終了時までの間に建築され、近代化に貢献した産業・交通・土木・

「えひめの近代化遺産」



生活文化・その他に関わる建造物」のことです。具体的には別子銅山関連産業遺産や萬翠荘、愛媛県庁などで、愛媛県には多くの魅力ある近代化遺産が存在します。これらの近代化遺産を活用し、地域づくりや地域活性化につなげていくことが調査・研究を行う目的の一つでもあります。

さて、近代化遺産の知識がなく、本を出版する仕事の経験もない私でしたが、センターの近代化遺産活用アドバイザーの岡崎直司さんに本調査に引き続き、ご助言いただいたおかげでこの本を完成させることができました。完成後、シンポジウムや岡崎さんのガイドで、松山、大洲、伊予鉄道沿線をテーマに3回のまち歩きツアーを開催できたことは次につなげるために実現できた私の誇れる仕事のひとつとなりました。それができたのも岡崎さんをはじめ、報告書の執筆者、所有者、行政担当者の皆さんのおかげであり、改めて感謝申し上げます。ところで、近代化遺産の事業を担当した者として、その魅力を紹介しますと、それは今も残る建造物等を通じて地場産業の礎



近代化遺産まち歩きツアー松山編



伊予銀行
ソリューション営業部

鈴木 伸弥

や地域の人の生活や文化のストーリーを感じることもできるところです。そのストーリーには先人たちの地域や産業への思いがあり、今の私たちの生活や文化、地域産業につながっています。その魅力は、地域や産業への愛着や思いにもつながり、教育や観光資源として活用できるのです。新居浜南高等学校ユネスコ部の別子銅山関連遺産に関わる活動のように誇りある地域産業を学ぶことに役立てられている事例もあります。近代化遺産はその管理や維持費用等様々な課題がありますが、地域の皆さんが誇れるような地道な活用が地域のための近代化遺産として輝く一歩となるのではないかと思います。

「伊予市中山町佐礼谷」と

「松野町藤生・奥野川」

この二つの地域で集落活動を支援する事業も担当しました。佐礼谷には住民自治組

織や加工組合があり、地域の特産品を作って販売したいという声からワークショップを行い、その計画をつくる中で、大街道や東京でゆずこしようななどを試販しました。

蔵生・奥野川では、特産品をつくるという経済的な活性化だけでなく、自助、互助、共助、公助の力を考えながら、地域行事や文化の継承、生き生きとした生活を維持するための地域活動計画をつくりました。その会合の内容は、松野町地域おこし協力隊の矢間大蔵さんに「蔵奥「結」新聞」としてまとめていただきました。

このように地域住民の皆さんで計画を立て、実行することは簡単なことではなく、目指すべき姿を描きにくいこともあります。小さな活動を始めても利益や目に見えた成果がすぐ得られるわけでもなく、ネガティブな考えがよぎります。それでも自分たちの誇れるところや良いところ探しを行うとそれを守り、継承したい思いを再確認できるのです。さらには、自分たちで考え、行動し、失敗しながらでも小さな成功体験を積み重ねること

とができることが少しずつ見えてきます。自



『蔵奥「結」新聞』

らの地域でできることやその役割が確認できれば、支援して欲しいこともより具体的に自信をもって、声を上げることができるようではないでしょうか。

その後も佐礼谷では、ゆずこしようなやふるさと小包便がつくられ、松野町では昨年、30年ぶりに河川敷でのいもたきが復活したことをたいへん嬉しく感じます。地域の皆さんの行動力やファシリテーターを担っていただいた前田眞先生からはいつも学ばせていただくことばかりの事業でした。

地域づくりとセンターに期待すること

これから人口減少が進み、集落の維持が困難な地域が出てくると言われています。しかしながら、人は、目先の経済性や効率性だけでなく、愛着や文化、誇りといった金銭価値には例え難いものも考えます。机上では無理だと思われることも、実際に小さな工夫と継続的な地域活動で集落生活が維持でき、さらにはそれが、私たちの自然や食の豊かさや安全にもつながるのではないのでしょうか。

このような中、地域づくりを考

えるとき、地域自らが現状を把握し、画一的ではない各々の将来像を描き、その課題と向き合う中でつくられる計画が大切です。小さいことからでもその計画を実践し、



佐礼谷の東京での試販

今、議論されている地方創生の取り組みが地域自らで考える取り組みとなることを願うとともに、その地域活動や移住者、地域おこし協力隊を支援する役割としてのセンターの活躍を勝手ながら期待しています。私もセンターで得た経験を活かし、今後も地域活性化の力となれるよう努力してまいります。

最後に、センター勤務時にお世話になったセンターの皆さん、諸先生方、そして地域の皆さんにお礼申し上げます。ありがとうございました。